

交叉点 24

明高24回生通信

22nd. /Feb. / 2024 No. 22

「噺家の前で駄洒落は言うべからず」

3-8 福岡洋典



好かん奴が来たな、と思った。こっちに歩いてくる、と言うより、はっきりした目的を持って、私に向かって歩いてくる。落語家の立

川談志に間違いない。

なぜ好かん奴と思ったか。あの頃 34 歳、関東で 5 年暮らした後とはいえ、私は、笑福亭仁鶴や吉本新喜劇の「・・・まんねん、・・・でんねん」で育ったコテコテの関西人である。TV で見る立川談志、ベランメイ調の角の尖った言葉で、相手に突っかかる様な話し方は、好かんなあと思っていた。

時は、バブル景気が始まった頃、ここは、香港啓徳空港、JAL 発券・案内カウンター。ちょうど成田からの 731 便が着く午後 3 時頃。1 階の到着階からここ 4 階まで、まっしぐらに上がって来たのだろう。頭にはトレードマークのタオル地の鉢巻をしている。

目の前に立つと、にっこりしながら「SW ちゃん、居るかい?」。「はい、SW 支店長は、今所用で日本に帰っています」「なんだ、そんなこっちやね〜かとも思ったんだ」

横に立つ連れの男性を見ながら「な〜に、こいつがね、今朝、韓国にマッタケ食いに行こうって言うから成田へね、行ったはいいけど、なんだってねえ、韓国へはビザが要るんだ、ってん

で飛べやしねえ」

※あの頃はまだ韓国へは観光でもビザが必要だった。「しょうがねえなあってんで、ふと考えたら、香港に SW ちゃんが居るし、な〜に、SW ちゃんとは中東での日航名人会でダチになった仲間んだけどよ、上海蟹の季節だし SW ちゃんと蟹でも食おう。それがいい、香港にするかって来てみたんだ。そうか、居ないか。」

「SW ちゃんの下は誰?」「K 次長ですが」

「じゃ K さんに言ってくれ、SW ちゃんに連絡して、談志がやって来て、歓待してくれって言ってますが、いかがでしょうか? って聞いてくれってね」「・・・」

「もし、SW ちゃんが、言わしとけ、ほっとけって言ったら、そりゃ〜しょうがねえな〜、俺の片思いだ」ときっぱり言い切った。「ミラマーホテルに居るよ。タクシーは、どっから乗るんだい?」

立板に水、ポンポンポンと、朝からあった事などまとめて話し、臆する事なく「歓待しろ」と言う。その見事な話っぷりと、ズバリ要求する気風の良さに、立川とはまさに立板に水の事か、談志とはこの話の真髓か、と感心し、この数分ですっかりファンになっていた。

「はい、ご案内します」と乗り場まで先導した。ドアを閉める前に、こちらに向き直り「あんたも来なよ、楽しい夜にしてやっからよ」と、トドメの一撃を喰らった。

バックオフィスに戻り S 総務課長に、事の成り行きを説明したら、次長ともども、致し方あるまい、上海蟹食べに行くか、となった。

さて、談志師匠たち二人と、次長、課長、総務の同僚、そして私の 6 人で、上海蟹を食べ終えたころ、談志師匠が「ゲテモノが食いてえなあ」と。S 課長が給仕を呼び「スペシャルメニュー」と注文した。しかし、スペシャルメニューと注文しただけでは、フカヒレなど、ただ値段の高いものを出されて終わる様な気がした。とって、ゲテモノを広東語でも英語でも言えない。苦肉の策で「コックに、珍しい材料で料理をしてもらいたい。私たちが材料を言い当てられなかったらチップ 100 ドル、言い当てられたらチップなし、と伝えて」と給仕に頼んだ。

出て来ました、出て来ました、大きな土鍋に入った何かの煮込み。其々の椀にとり分けてもらい、怖々食べてみた。「カエルだな、足ひれのゼラチンがある」「指の骨がカエルにしては大きい、アヒルだ」……「師匠、決めて下さい」。ようやく、給仕を呼んで師匠が「アヒル」と言う。「残念！ タヌキ！！、はい、100 ドル、サンキュー」。そういえば、臭み抜きだろう、生姜がいっぱい入っていた。これでなんとか、談志師匠の「ゲテモノ食いたい」の希望は叶ったようだった。

宴もたけなわ酔いがまわって、よせばいいのに、私がひとつ駄洒落を言った。すると談志師匠が「バッキヤヤロウ、噺家の前でくだらねえ駄洒落なんか言うんじゃねえ」とカンカンに怒った。

気まずい雰囲気になりかけたが、師匠が、さっと気分を変えて「ディキシーランドジャズのいい店があるだろ、行こう」と言った。われわれ

みんな「ディキシーランドジャズ？店？知らないなあ」と顔を見合わせていると、「俺が、連れてく」と談志師匠はニコニコ顔で上機嫌だ。それじゃあと言うので、談志師匠の案内で歩き始めた。

秋の夕暮れ、気持ちの良い風がふく街には、多くの地元香港の人や、観光客が、そぞろ歩いていた。先頭を歩く談志師匠と並んで歩きながら、「師匠、歩いてくる人を見て、日本人か、香港人か分かりますか？」・・・「ん～、わからねえなあ」「すれ違って、振り向いたら日本人ですよ」。日本人ならみんな立川談志と分かるという意を込めた。「うまいこと言うねえ！」と、さっき損ねてしまったご機嫌へのリカバリーショットは見事に成功した。

さて、ディキシーランドジャズの店に着いたが、セーラー服を着た水兵でごった返して、なかなか奥に進めない。丁度、香港返還前の訪問で、エリザベス女王が来ておられ、何艘もの英国軍艦が入港していたのだ。やっとの思いで奥に入ったものの着席はできない。師匠はご満悦で、着席など気にもせず「アイスクリーム、アイスクリームが聴きたい」と早速のリクエスト。S 課長が、バンドマスターの所まで水兵をかき分けて行き、リクエストしているのが見てとれた。そりゃそうでしょう、これだけ多くの客だから、先に上がっているリクエストは沢山あるはず。見ていると、K 課長がバンマスに何か握らせた。すると、バンマス、ガッテンだとばかり「次の曲は、アイスクリームアイスクリーム！」少なからずブーイングが上がったが、バンマスは間髪入れず「イツマナー、リクエスト フロム ジャパン」と言い放つや否や曲が始まった。この頃、バブル景気 日本が世界中を買い占める勢いだった。飛行機の予約もファーストクラスから埋まって

いった時代だ。

談志師匠は大喜びで、曲に合わせて、自分の両腕を、人を抱きしめる様に背中まで回し、男女が抱き合ったように見せて踊って見せた。次々とリクエストをして、その度にS課長がバンマスまで走り、談志師匠は、ディキシーランドジャズを堪能した。その夜談志師匠は、サービス精神旺盛で、曲に合わせて踊り、歓喜で涙ぐみ、曲の説明をしてくれた。「楽しい夜にしてやっからよ」という言葉を裏切らなかった。 <終わり>

高校時代の顔を臉に浮かべながら、どうしてるかな、元気かな、と気になりますね。ちょっとでもいい、「フラダンスに夢中」= 楽しくて健康的でいいなあとか、「パリに夢中な直売所のオバチャンです」= 素敵なオバチャンやろなあとか、お顔が目に浮かびます。河合さんに言われて、私はいつでも紙面の埋め草を、好きだから、書きますが。友達の近況ほど、嬉しい楽しいものはありません、近況のお知らせを優先して下さい。嘶家の前で駄洒落は言うべからず。

「こぼれ話」

3-9 立花義司



た。

「内藤 卓 (たかし)」1909年8月10日生

皆さんは、私達の先輩にラグビー日本代表の選手がいらっしゃるのを、ご存じですか？ それも代表チームの **captain** として **captaincy** を発揮されました。

まれ。明石中から同志社大へ進学。ポジションはBK (ボックス) で、代表チームでは、WTB (ウイング) で活躍されたそうです。

ここで、ラグビー日本代表の事に触れたいと思います。

日本代表選手に選ばれ、その後、日本ラグビー協会が指定対象とした試合に出場した選手に“CAP (キャップ・帽子)”が授与されます。日本代表チームが行った試合のうち、日本協会指定対象の試合は“TEST MATCH (テストマッチ)”と言われ、このTEST MATCHに出場した選手のみ日本代表として認められ、その認定証としてCAPが与えられるのです。

1982年12月に日本協会が世界の制度を取り入れ、“CAP制度”を導入し、1930年まで遡ってCAPが授与されました。

内藤氏は1934年、38人目の日本代表としてCAPを付与されました。

ラグビー部のない明石高校なので、ご存知で無い方が多くいらっしゃると思います。

私も、大学でラグビーを始めました。競技の面白さのみならず、このスポーツの持つ思想に魅了された私にとって、偉大な先人の事をぜひ皆さんに知っていただきたいと思い、書いてみました。

「寺の町」

3-9 松尾和彦



松尾です。個人的な話になりますが昨秋、柄にもなく町内会長を引き受けました。前任者は90代半ばで具合が悪くなって、もうどうにも動けません。小さな

町内で他にやれそうな人がいないと頼まれてやむなく。リタイアしてせつかくのんびり暮らしていたのですが（ヒマそうに見えたでしょうね）、いろんな話が飛び込んでくるようになって、なかなか楽を続けさせてもらえません。カ



ミさんも地域の役をやっていますが、似たようなものです。



さて、明石川東岸のハマコク（旧西国街道）南側、大観町・日富美町・材木町あたりってやたらとお寺さんが多い。大きな塔が見えることはないし門前町の名残もないけれど、平凡に見える通りから入っていくと、しっかりした区画の中にお寺の塀が目立つ。敷地が結構広いところもあって、歩きまわっているといかにも寺の町という感じがする。

川のすぐそばの無量光寺・東隣の善楽寺。古い建物は残っていないけれど、源氏物語ゆかりのところと伝わる。善楽寺（天台宗）は孝徳天皇の文化年中（645～649）に天竺の高僧法道仙人が開創したと縁起に記されている。う～ん、ちょっと怪しい。まあ最澄誕生以前だから最初は天台宗もへったくれもなかったんだろうけど、平安中期(1053)には当寺の住職が転じて（短期間だけれど）延暦寺座主になったというから、



その頃は有力な寺院だったんだろう。平清盛にも手厚く庇護されていたらしい。

源氏物語はもちろんフィクションだから、現実に光源氏がそこらを歩いたはずはないけれど、明石は都でも少しは知られた所だったんだろうね。当時どの辺りまでが明石の範囲だったんかはよう知らんけど。

私は漫画で読んだだけなので偉そうなことは



言えないけど（「あさきゆめみし」。なかなか面白かった。）、明石の上は主役級だし、彼女に連なる面々は物語の中心に座り続けていて存在感が大きい。地元民の話のネタとしては申し分ありません。紫式部さんには、他にも候補地があったでしょうに明石を取り上げていただき、ありがとうございました。

善楽寺南隣に正徳寺。真宗なので（最初からそうだとすると）時代はずいぶん後になり

ますが。今の住職は明高 25 回生。ウチの父と母に戒名を授けてくれたのは彼です。

高 3 の時祖母が亡くなってよく坊さんが来て

たけど、失礼ながら正徳寺がどこにあるかなんて知りませんでした。(墓は近くの長寿院にあるし、あまり熱心な檀家じゃないのでわざわざ寺に行ったりはしてなかったしね。)

今年は父母の十三回忌をやります。(たまたま同じ年、三ヶ月違いで亡くなったので法事は一緒に済ませてます。母は嫌がっているかもしれませんが。) いつまでこんなことやれるかって気はしますが、今の時点で永代供養しちゃうのもどうかと思う。一方では自分の代でなにか区切りをつけておいた方が良さそうにも思うし。まあボチボチ考えることにします。

今年は義父の一周忌もあります。(義母は一応存命です。) カミさんは兄弟がないので、こっちもそのうちウチらで何とかせんといかん。

少し東に本立寺。ここも広いけど日蓮宗だから時代はもう少し後かな。さらには宝林寺、長久寺、浄行寺、龍谷寺、長林寺等々古そうな寺がたくさんあるんだけど、通りすがりの私に昔話を教えてくれる奇特なところは少ないですね。まあ、観光地じゃないからしかたないか。



善楽寺の寺域は(これも縁起によると)平安末期には北は樽屋、町東は材木町にわたる1キロ平方もあったというから、その一部が他の寺になったんだろうけれど、どういう経緯があったんだろう。南に下るとお寺じゃなくて神社が多くなる。岬町や港町辺りも。



伊弉諾神社、伊弉冊神社、岩屋神社をはじめたくさん。敷地は大きなお寺より狭いけれど参道(たぶん)が残っていたり玉垣越しに境内が覗

けたりで、お寺さんよりオープンで地域との結びつきが強い気がする。さらに浜近くまで足をのばすといくつもの蛭子神社が海を見つめて佇んでいる。

神社は仏教伝来以前から存在したのですが、伊弉冊神社は崇神天皇(第十代)6年に勧請されたと言い、岩屋神社は成務天皇(第十三



代)13年勅命により淡路より御遷されたと言う。まあ大昔の話で、彼らが実在していたとしても年代はさやかでないと思いますが、岩屋神社は昨2023年、鎮座1880年を祝っておられました。1880年前、西暦143年となると魏志倭人伝より昔になりますし、この真正直な(?)計算は大きなところに出るとたぶん通用しないでしょうが、地元で自称しているぶんにはかまわないですよ。ではまた。

事務局からのご連絡

・ネットでの会議システムを使って 24 回生同士で話せる場を検討中です。

「明石高校 24 回生のポータル」

<http://mokuzi24.dokikai.net/>

でご案内したいと思います。時々覗いてみてください。

「明石高校 24 回生のポータル」



・同様の主旨で LINE のトークルームを作りました。

・招待が必要です。河合 嘉の LINE 友達になっていただくと「招待状」をお送りします。

河合 嘉



・住所不明者についてのお願い

1 組 菊川忠男 岸本一朗 坂本隆彦 西海彰一 八木義孝 泉谷恵子 松尾洋子
2 組 安藤悦郎 長野修身 平岡敏充 竹村郁子 長谷香代子
3 組 北田雅福 高見訓司 土島日出彦 増子 隆 三浦寛司 藤永みどり 秋定和子 平野由美子 鈴木佳子
4 組 奥野好隆 田村政一 仲井 透 内田志津子 大泉尚子 尾坂尚子 山口哉子

5 組 大村直樹 佐藤市朗 橋本成弘 長谷川俊広 山本和彦 魚住篤子 坂本嘉代子
中川ゆかり 平山登志子
6 組 近石 弘
西馬慎三 米谷嘉子
7 組 辻敏明 足立真知子 植田さち 近藤恵子 坂本京子 佐藤美智子 富岡るみ 森江真岐子 盛井雅子
8 組 藤本雅之 諸岡宗司 山崎清孝 庄司真弓 加藤佐智代 田中英子
9 組 浅田勝彦 魚住一裕 魚谷雅弘 加藤和宏
10 組 青木賢一 木下孝一 黒田幸雄 西森正二 久山哲広 安尾弘文

2024 年 1 月現在 (敬称略)

心当たりの方がおられましたら、下記までご連絡ください



《連絡先》事務局
河合昭彦

〒674-0051

明石市大久保町

大窪 1000 - 1

Tel 090-

8659-5628

Fax 078-934-1667

メール m24@dokikai.net